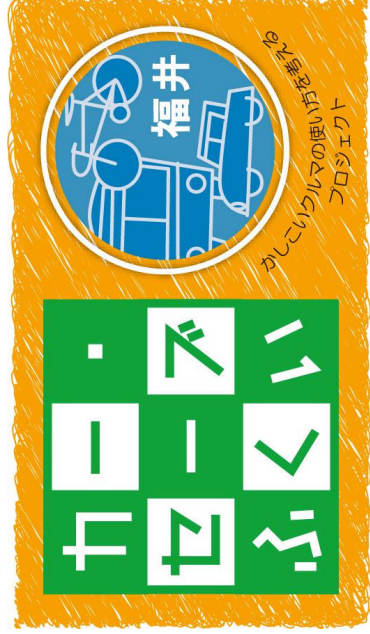




クルマに頼り過ぎない社会づくり アクションプラン



平成23年10月

クルマに頼り過ぎない社会づくり推進県民会議

クルマに頼り過ぎない社会づくり アクションプランの策定について



◆策定の趣旨

福井県は全国トップのクルマ依存社会ですが、過度なクルマ依存は地球温暖化の進行や公共交通機関の衰退につながるなど、大きな問題をはらんでいます。

こうした現状を改善し、公共交通機関等とクルマの適切な使い分けをすることにより、地域にとって大切な公共交通を維持していくことを目指し、行政、企業、県民が取り組む行動指針を策定しました。

◆本県の現状

○バスの利用者が大幅減少

地域鉄道の利用促進により、近年は公共交通機関全体の利用者数はほぼ横ばいで推移。一方、バスの利用者数は一貫して減少し、10年間で3割も減少。

○マイカーの年間走行距離は高止まり

平成20年度の調査によると、本県のマイカー一台あたりの年間走行距離は全国平均の約1.1倍。平成22年度の平均走行距離も横ばい。

○短距離のクルマ依存も進行

平成17年度のパーソントリップ（PT）調査によると、福井市の街なかでの3km未満の移動手段の過半数がクルマ。平成元年度の調査と比べるとクルマの割合が大幅に拡大。

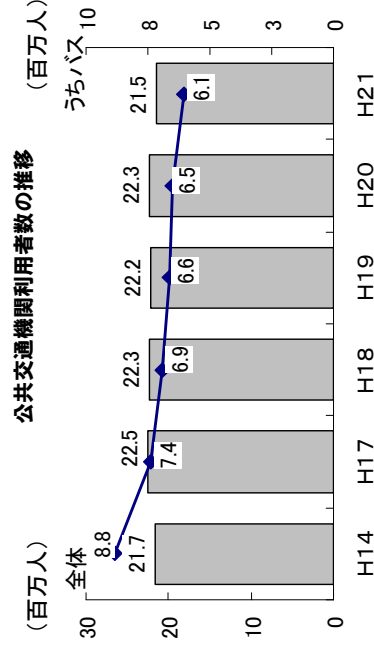
◆基本方針

CSRでクルマに頼り過ぎない社会づくり

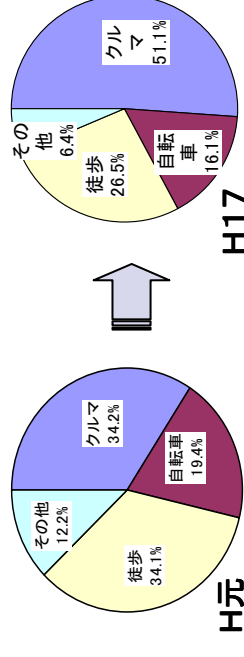
クルマに頼り過ぎない社会実現のためには、県民一人ひとりの行動が必要です。そのため、県民や企業にも社会的責任として運動に参加してもらいたいという意味をこめ、CSRを県民運動のキーワードとしました

◆計画期間

平成23年度～平成26年度



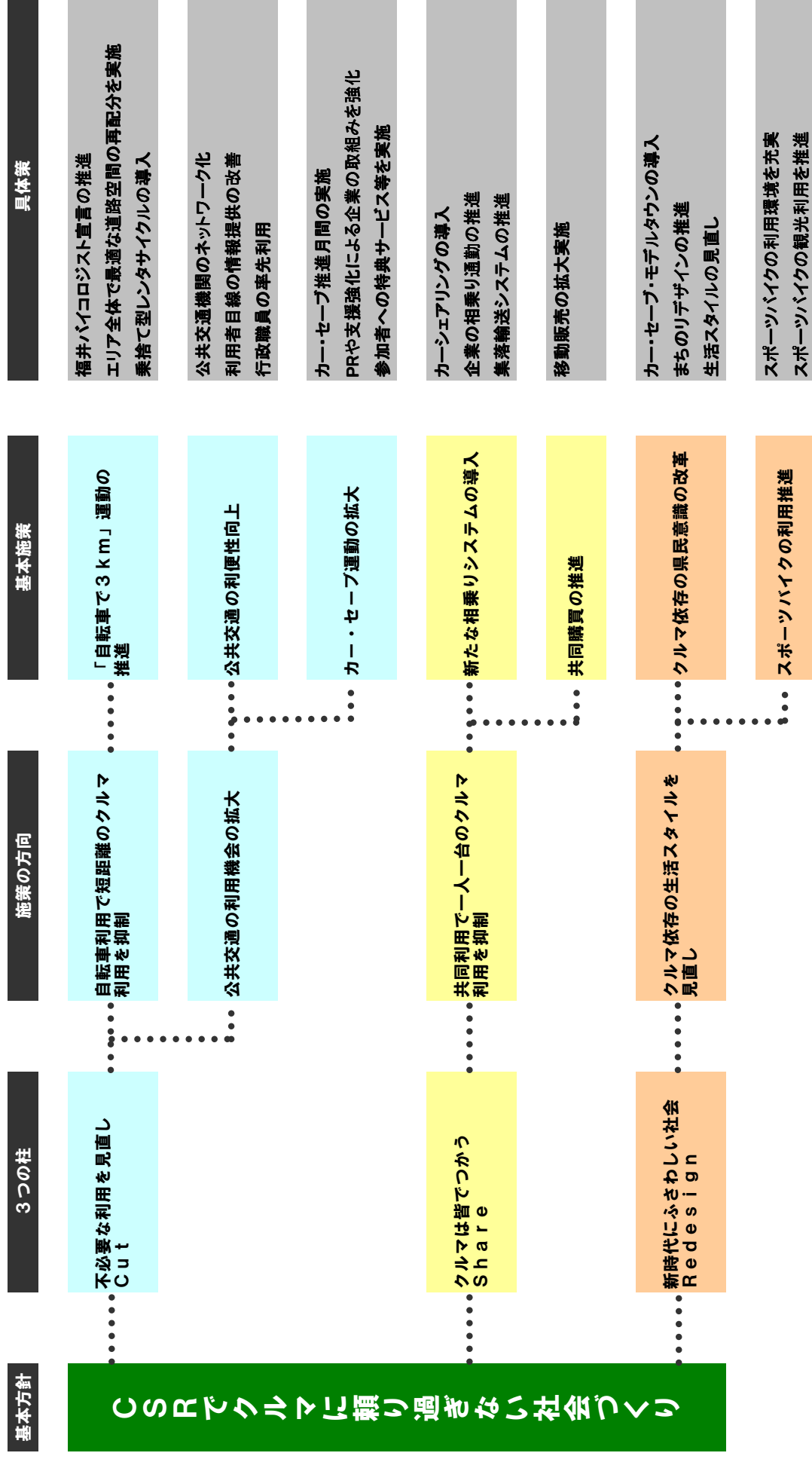
街なか 3km未満の移動手段の変化(福井市)



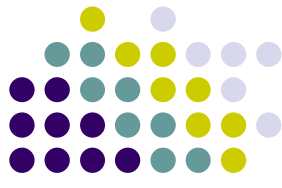
出典：PT調査(H元、H17)

※CSRは、Citizen・Corporate Social Responsibility(県民、企業の社会的責任)の略

アクションプランの施策体系



自転車利用で短距離のクルマ利用を抑制



平成17年度に実施した福井県パーソントリップ調査によると、福井市内の街なか地域において、3km以内の移動手段の半数をクルマが占めています。平成元年度の調査時には、自転車と徒歩が半数を占めていたことから、短距離においてもクルマ依存傾向が顕著に表れています。

自転車で3キロ運動の推進

○福井バイコロジスト宣言の推進

- ・県内の自転車ブームを先導する福井バイコロジストを募集
- ・福井バイコロジストが実施するサイクリングイベントの開催、ツイッター等での情報発信を拡大



◆◆福井バイコロジスト4か条

3km以内は積極的に自転車を利用
交通規則やマナーを守る
クルマに乗るときは自転車を邪魔にしない
自転車利用の輪を広げる運動に協力

○エリア全体で最適な道路空間の再配分を実施

- ・歩行者、自転車、クルマの最適な通行ルートを地域と行政で協議
- ・マップ作成や案内表示等により自転車推奨ルートへの誘導策を実施
- ・交通規制等により自転車推奨ルートの安全対策を強化

○乗捨て型レンタサイクルの導入

- ・ビジネスや観光、買物等での自転車利用を促進



クルマは幹線道、自転車はコミュニティ道路に誘導

一方通行や時間帯規制による安全確保策も実施



公共交通の利用機会の拡大

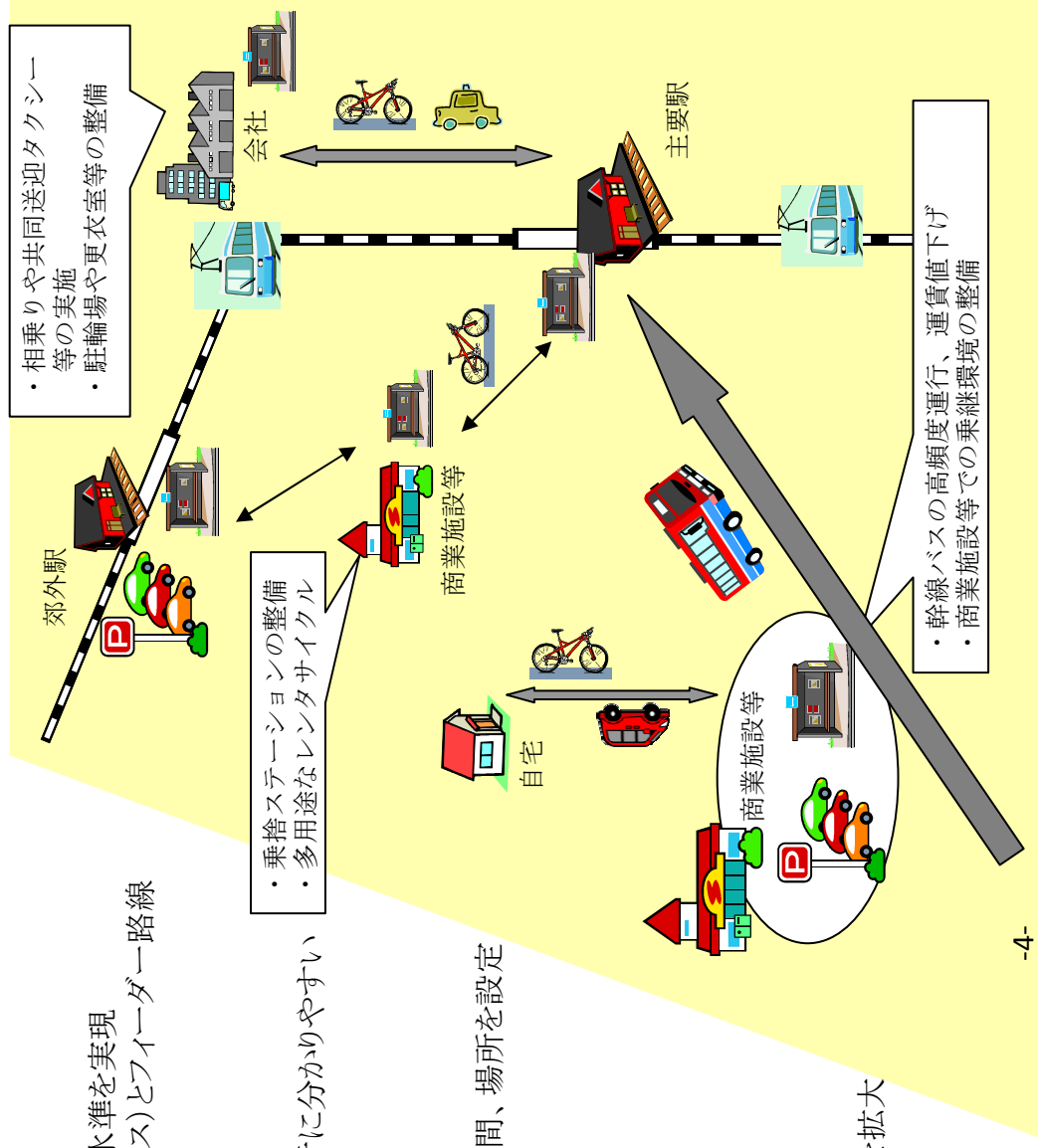
県内の公共交通機関の利用者数は、この15年間で約1千万人が減少しています。一方、今後10年間で、公共交通機関のメインユーザーである高校生は約17%、運転免許を持たない高齢者は約26%も減少するなど、公共交通機関を取り巻く社会情勢は大変厳しくなります。

公共交通の利便性向上

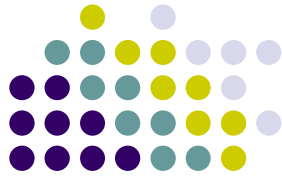
- 公共交通機関のネットワーク化
 - ・幹線バス路線の高頻度運行、乗りやすい運賃水準を実現
 - ・乗継拠点の整備により基幹路線（鉄道、幹線バス）とフィーダー路線（枝線）をネットワーク化
 - ・えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗入の実現
- 利用者目線の情報提供の改善
 - ・マイ時刻表や路線案内の工夫等により、利用者に分かりやすい情報提供を実施
- 行政職員の率先利用
 - ・通勤や公務での率先した公共交通利用を徹底
 - ・公共交通利用を前提とした会議やイベントの時間、場所を設定

カー・セーブ運動の拡大

- カー・セーブ推進月間の実施
 - ・強化月間の設定と県民フォーラムの開催
- PRや支援強化による企業の取組みを強化
 - ・電車内や駅等での参加企業のPR掲載
 - ・社員のカー・セーブ運動参加を支援する企業を拡大
- 参加者への特典サービス等を実施
 - ・協賛店舗による割引サービス等を実施



共同利用で一人一台のクルマ利用を抑制



本県の一世代当たりマイカー保有台数は全国一位の状況が続いています。また、平成20年度の調査では、一台当たりの年間走行距離も全国平均を一部も上回っています。

地球温暖化の原因となるCO₂の排出量も平成20年度は基準年から約57%増加しています。

新たな相乗りシステムの導入

○カーシェアリングの導入

- ・安易なクルマ利用を抑制するためカーシェアリングを導入
- ・カーシェアにより、社有車や個人の2台目需要を抑制
- ・福井型カーシェア事業モデルを検証し全県への普及を推進

○企業の相乗り通勤の推進

- ・社有車相乗り通勤、共同送迎等の導入を推進

○集落輸送システムの推進

- ・自治会等による輸送活動を中山間地域等へ導入

共同購買の推進

○移動販売の拡大実施

- ・取扱品目等の拡大により、利便性を向上

〔金沢市での導入事例〕

- ・平成18年11月開始
- ・インターネット予約とICカード利用による無人システムで24時間運用
- ・金沢駅東口ほか6箇所のステーションで運用中

カーシェア利用

週2回、3時間片道10kmで使用

・基本料金	2,800円
・利用料金	17,280円(180円×3時間/15分×8日)
・距離料金	2,240円(14円×10km×2往復×8日)
計	22,320円/月 (26.8万円/年)

自動車保有

250万円の新車を9年償却(残価ゼロと想定)

・購入費	250万円(28万円/年)
・税、保険	約8万円/年
・車検等	約10万円/回
・ガソリン代	130円/L×160km/月÷9.7km/L
計	約43.6万円/年

クルマ依存の生活スタイルを見直し

平成17年度の本県のDID(※)面積は、平成2年度から約1割程度増加した一方、DID人口密度は一割程度低下しています。都市の拡散は交通需要の拡散につなかり、公共交通は不効率な運行を強いられます。

また、クルマに頼った生活は、日常生活の歩数の少なさにも表れており、健康長寿のためにも運動不足の解消は大切です。

※DID:人口集中地区。国勢調査による地域別人口が4,000人/㎢以上でその全体が5,000人以上となっている地域のこと。

クルマ依存の県民意識の改革

○カー・セーブ・モデルタウンの導入

- ・“スマート(賢い)なクルマの使い方”のモデル実証地域を導入
- ・カーシェアやレンタサイクルを提供するトータルモビリティセンターを運用
- ・大学等と連携した“スマートなクルマの使い方”講習会やイベント等を開催

○まちのリデザインの推進

- ・県都市計画区域マスタープランを改訂(コンパクトシティの推進と広報強化)

○生活スタイルの見直し

- ・働き方、働く場の多様化でクルマに頼らない通勤を実現
- ・都会並みの「歩く」習慣の普及により健康ライフを推進

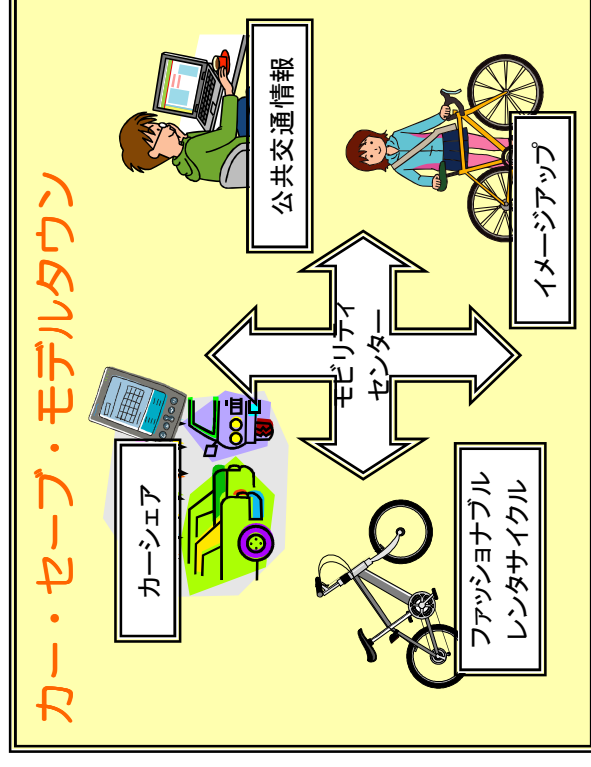
スポーツバイクの利用推進

○スポーツバイクの利用環境を充実

- ・スポーツバイクやミニベロ(小径車)等の多様なレンタサイクルを導入
- ・テーマ性あるサイクリングロードの周遊ネットワーク化を推進
- ・自転車情報を発信するポータルサイトを開設

○スポーツバイクの観光利用を推進

- ・全国ブランドのサイクリングイベントを開催
- ・小松空港や福井・石川広域サイクリングロードを利用した自転車観光を推進



県民の行動指針

項目	基本施策	行動内容
<p>不必要な利用を見直し</p>	<p>自転車で3キロ運動の推進</p>	<p>福井バイコロジスト宣言に参加し、自転車を積極的に利用しましょう</p> <p>3kmまでの移動には自転車を積極的に使いましょう。また、自転車も車両の仲間です。クルマに乗るときにも自転車を邪魔にはしないようにしましょう。</p> <p>みどりの自転車やレンタサイクルを上手に活用しましょう</p> <p>駅には「みどりの自転車」やレンタサイクルもあります。活用すれば、目的地が駅から離れていても、クルマ以外での移動が可能です。</p> <p>自転車推奨ルートを積極的に活用しましょう</p> <p>コミュニティ道路などで設定する自転車推奨ルートは、自転車の走りやすい道です。自転車利用者を優先し、クルマでの通り抜けは避けましょう。</p> <p>公共交通のある場所には公共交通を使って行きましょう</p> <p>公共交通は乗る人が少なくなると、赤字の拡大や路線廃止につながります。公共交通は社会にとっての重要な資産ですので、他人事とは思わず、皆が積極的に乗ることで残しましょう。</p> <p>乗継にも協力しましょう</p> <p>パーク&ライド等の乗継環境を良くしています。また、乗継により効率的な運行も可能になります。クルマと公共交通、公共交通同士を乗り継ぐことにも協力してください。</p>
	<p>公共交通の利用促進</p>	<p>カー・セーブ運動に参加し、週1日はクルマの利用を控えましょう</p> <p>毎日のクルマ利用を止めることは無理でも、週に1日くらいはクルマ利用を控えましょう。カー・セーブデーには最大半額の運賃割引のほか、通常よりもお得な回数券もありますので、積極的に参加しましょう。</p>
	<p>カー・セーブ運動の拡大</p>	

項目	基本施策	行動内容
クルマは皆で使う	新たな相乗りのシステムの導入	<p>カーシェアと公共交通を使い分けて安易なクルマ利用を控えましょう</p> <p>カーシェアは、クルマを保有せず、必要なときだけクルマを使う新しい形態です。クルマは保有するだけでなく大きなコストがかかります。カーシェアを活用することで、クルマを保有することから見直しましょう。</p> <p>家族や同僚等との相乗りで一人一台の利用を控えましょう</p> <p>企業には相乗り通勤を奨励しています。通勤は相乗り、帰宅は公共交通を利用するなど、工夫しながら相乗り通勤にも取り組みましょう。</p>
新時代に いざわしい 社会に	クルマ依存の 県民意識の 改革	<p>クルマに依存した生活スタイルを見直しましょう</p> <p>毎日ではなくても、歩いたり自転車移動できる場所で用事を済ませましょう。過剰なクルマ送迎は控えて公共交通を使うようにしましょう。ちょっと我慢したり工夫することで、クルマ依存を減らしましょう。</p> <p>休日のクルマ利用を見直しましょう</p> <p>休日の外出や旅行は必ずクルマで行っていませんか。公共交通や自転車を使うことにより、移動の時間を有効に使ったり、クルマでは味わえない楽しみもあります。</p> <p>歩いたり自転車を活用し、健康な生活を送りましょう</p> <p>健康長寿の本県ですが、成人の運動時間は不足傾向です。通勤を自転車に変えることで、無理せずに毎日カラダを動かす時間を確保できます。</p>
	スポーツバイク 利用の推進	<p>クルマの代わりとしてスポーツバイクを使いましょう</p> <p>自転車は子どもだけの乗り物ではありません。スポーツバイクだと、長距離でも速く、快適に移動することが可能で、健康的でエコなクルマの代替手段となります。</p>

企業等の行動指針

項目	基本施策	行動内容
<p>不必要な利用を見直し</p>	<p>自転車で3キロ運動の推進</p>	<p>福井バイコロジスト宣言への参加呼びかけに協力しましょう</p> <p>3kmまでの通勤や社用には自転車積極的に使うよう呼びかけてください。また、自転車も車両の仲間です。クルマの運転時には自転車への配慮を呼びかけてください。自転車通勤を禁止している場合は、禁止を止めましょう。</p> <p>みどりの自転車や社用自転車を上手に活用しましょう</p> <p>駅にある「みどりの自転車」を有効に活用しましょう。また、社員の共用自転車を持つことで、近距離のクルマ移動を減らしましょう</p> <p>自転車推奨ルートの活用呼びかけに協力しましょう</p> <p>コミュニティ道路などで設定する自転車推奨ルートは、自転車の走りやすい道です。推奨ルートを使った通勤を呼びかけるとともに、通勤や社用でのクルマの通り抜けは避けるよう社内で呼びかけてください。</p>
	<p>公共交通の利用促進</p>	<p>通勤や出張時には公共交通を使いましょう</p> <p>通勤や出張には公共交通を使うよう呼びかけましょう。また、通勤手当や出張旅費では公共交通の利用が不利にならないように配慮してください。</p> <p>イベントや会議の開催では公共交通に配慮しましょう</p> <p>イベントや会議を開催する場合には、公共交通が利用できる場所や時間を設定し、ダイヤとあわせて案内しましょう。また、会場から駅まではシャトルバス等を運行することで、なるべく公共交通を使うようにしましょう。</p> <p>パーク＆ライド等の整備に協力してください</p> <p>公共交通の利便性向上のため、商業施設の駐車場を活用したパーク＆ライド等を導入しましょう。初期投資には県の支援がありますので、公共交通の乗継拠点の拡大に協力してください。</p> <p>フレックスタイムやSOHOを活用しましょう</p> <p>フレックスタイムにより、公共交通を使った通勤がしやすい勤務環境づくりを進めましょう。メインになる公共交通のダイヤに合わせた勤務開始時間の設定に配慮しましょう。</p> <p>※フレックスタイムとは、出退社の時間を自由に設定できる働き方のこと、SOHOとは、パソコンなどを利用して小さなオフィスや自宅でビジネスを行うこと</p>

項目	基本施策	行動内容
<p>不必要な 利用を 見直し</p>	<p>カー・セーブ 運動の拡大</p>	<p>カー・セーブ運動に参加しましょう</p> <p>カー・セーブデーの運賃割引は参加企業の社員だけが対象です。カー・セーブ運動に企業として参加登録し、社員の積極的な運動参加を呼びかけてください。</p> <p>カー・セーブ運動に取り組む社内環境を整えましょう</p> <p>カー・セーブデーをノー残業デーにしたり、駐輪場等を整備することで、社員がカー・セーブ運動に取り組みやすい環境を整えましょう。県からの支援もありますので活用し、運動推進に協力してください。</p> <p>カー・セーブ運動の参加者への特典サービスに協力してください</p> <p>カー・セーブ運動の参加者は、個人的な負担もありながら社会問題に取り組んでいる人です。特典サービスにより、カー・セーブ運動の参加者の取組みを支援してください。</p>

項目	基本施策	行動内容
クルマは皆で使う	新たな相乗りのシステムの導入	<p>相乗りの通勤や共同送迎に取組みましょう</p> <p>社有車などを活用して相乗り通勤や共同送迎に取組みましょう。社員の時間意識も高くなり、一人一台のクルマ利用よりもコストが削減されます。</p> <p>カーシェアと公共交通を使い分けて安易なクルマ利用を控えましょう</p> <p>カーシェアは、クルマを保有せず、必要なときだけクルマを使う新しい形態です。クルマは保有するだけでなく大きなコストがかかります。カーシェアを活用することで、社有車を保有することから見直しましょう。</p> <p>移動販売事業に参画しましょう</p> <p>公共交通の不便な地域では、移動販売により不便さを減らすようにしています。提供サービスの拡大による利用者の満足度向上のため、移動販売事業に参画しましょう。</p>
新時代にふさわしい社会に	クルマ依存の 県民意識の 改革 スポーツバイク 利用の推進	<p>コンパクトシティに協力しましょう</p> <p>クルマがないと移動できない場所への立地はなるべく避けましょう。</p> <p>社員の健康増進に取組みましょう</p> <p>健康悪化は仕事への悪影響や医療費負担の増加につながります。社員が仕事に打ち込める環境づくりを進めるため、自転車通勤の推進など、社員の健康増進の取組みを進めましょう。</p> <p>スポーツバイクの通勤利用に協力しましょう</p> <p>スポーツバイクは、長距離でも速く、快適に移動することが可能で、健康的でエコなクルマの代替手段となります。通勤でも利用可能な環境整備（就業規則の対応、安全な駐輪設備や更衣室の整備等）を進めましょう。</p>